

日銀の視点

わが家の夏は家族で旅に出るのが恒例である。息子たちの部活動の合間を縫って1泊2日で県北を巡った。台風の接近にもかかわらずおおむね天候にも恵まれ、予定通りに回る事ができた。水戸を出発して、まず大子町の「袋田の滝」を訪れた。折からの雨で水量が増して、水流が白いしぶきを上げはじけながら岩肌を滑走する。しばらく滝の躍動感に見入った。次に常陸太田市の「竜神大吊橋」

吉田 豊

日本銀行 常陸太田支店 事務長

一度行ってみたい茨城

を渡る。絶景の峡谷の底に光る湖面からは高さ約1000m。バンジージャンプやってみる？ と息子に聞くと、顔を引きつらせてかぶりを振った。橋のたもとにはカエルの形に似た巨石があり「触ると

る。しかし、先の震災では当地も津波で大きな被害を受けたと聞く。復興に当たり多くの人が重ねた労苦に頭が下がる思いであった。部屋から海が一望できるホテルに宿を取った。新鮮な海鮮料理をいた

手を振って見送ってくれた。県が8月に公表した「観光客動態調査結果」によると、昨年1年間の茨城県の入込客数(延べ人数)は6183万人。地域別では県央(全体に占める割合35%)や県南(同

公共交通機関では不便で、限られた日程では車でなければ回れなかった。しかし、筆者がかつて勤務した大分県では、鉄道が通わず道も悪い温泉郷が「めったに行けない秘湯」と不便さを逆手に取った宣伝で人気を得た例があった。交通の便が良いに越したことはないが、「一度は行ってみたい」と思えば人の足は向くのではないか。情報発信の在り方による伸びしろの大きさを感じた。東京に帰る常磐道で息子がつぶやいた。「今回の旅行は思ったより楽しかった。茨城にまた来たい」

若ガエル石」の看板。妻が喜々としてなでていた。その後、山道を東に抜けて北茨城市に入り五浦海岸に出た。六角堂より海岸線を眺めると、岡倉天心がこよなく愛した風景から変わらぬようにも見え

だき、つるつる泉質の温泉に癒やされたが、最も良かったのは「おもてなし」であった。食事処や大浴場などで従業員が心温まる対応に接し、良い思い出になった。翌朝は女将が駐車場まで一緒に出てきて

それぞれ7%にとどまる。風光明媚な自然や温泉などの観光資源に恵まれているので、多くの人に訪れてほしい。確かに交通の便の良しあしは大きい。今回の観光ルートでも山間部から臨海部に出るのに公

公共交通機関では不便で、限られた日程では車でなければ回れなかった。しかし、筆者がかつて勤務した大分県では、鉄道が通わず道も悪い温泉郷が「めったに行けない秘湯」と不便さを逆手に取った宣伝で人気を得た例があった。交通の便が良いに越したことはないが、「一度は行ってみたい」と思えば人の足は向くのではないか。情報発信の在り方による伸びしろの大きさを感じた。東京に帰る常磐道で息子がつぶやいた。「今回の旅行は思ったより楽しかった。茨城にまた来たい」

(第2土曜日掲載)